

テーマ

舞姫というタイトルの意味について

はじめに

私がこのテーマを設定した理由は、舞姫というタイトルに疑問を持ったからだ。舞姫というのは、エリスのことだと思うが、本当にそれだけなのかと思った。この小説において、エリスは題になるほど重要な人物なのかと思った。そこで私が考えたのは、「舞姫」というタイトルの意味には、エリスだけでなく豊太郎も含まれているということだ。また、エリスは、単なる豊太郎の恋人ではなく、この話において、豊太郎との共通性を示し、「舞姫」と豊太郎をつなぐ役割をもっていると考えた。

本論

ここからは豊太郎とエリスの共通点を述べた上で、「舞姫」に豊太郎がどう含まれているかを考えようと思う。

まず、豊太郎とエリスの生い立ちについて。二人とも父を亡くし、母に育てられている。また、豊太郎は、厳しい家庭教育を受け、首席、官僚などのエリートの道を進み、エリスは、学問の教育は乏しいものの、舞の業の教育を受け、場中で二位の地位になる。このように、共通点があり、豊太郎については「自分の本性は父を失い、母に育てられたため生まれたかもしれない」と述べられている。また、豊太郎は官長の、エリスは座長の、ロボットの存在として、受動的、機械的な人間だといえる。

この後二人は、似たような境遇であったためもあり、引かれ合っていくが、それが原因で免官になった際、豊太郎はエリスに、エリスは母に、それぞれ隠し事をした。この様子から二人が似ていると考えることができる。また、本当の事を面と向かって言えない性格であるともわかる。

その後、豊太郎は、帰国するかエリスと暮らすかを迷う事になるが、天方の問いに対し「承る」と答えてしまい、悩みすぎて倒れてしまう。またエリスも、相沢に豊太郎の帰国を告げられ、パラノイアにかかってしまう。

このように、豊太郎とエリスが似ていると示唆している部分が他にも多数ある。

よって豊太郎からエリス、舞姫へとつなげることができる。

また、豊太郎についての記述にも、舞姫を示唆する部分がある。

勇気がない、心変わりしやすい、という表現は本文にもよく出てきている。また、先に出てきた受動的、機械的な人間であるという、これらの表現から、豊太郎が周りに流され

やすい、意志の弱い人間であるとわかる。

つまり、人形のような、舞姫のような人間であるとわかるのだ。

まとめ

以上のことから、私は、「舞姫」というタイトルには、エリスの意味だけでなく、豊太郎の意味も含まれていると考えた。

今回のレポートでは、舞姫と豊太郎の関係性から、豊太郎について述べたが、舞姫にはもっと深い意味もあるかもしれないと思った。

参考資料

電子辞書、インターネット上の現代語訳